

新たな節水・節電対策のお願いについて

平成27年度の干ばつによる電力料金負担の増、末端ほ場の用水不足の状況を省みて、平成28年度以降の対策案を1月開催の維持管理委員会や理事会で下記のとおり決定しました。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

1. 節水・節電するために必要な課題

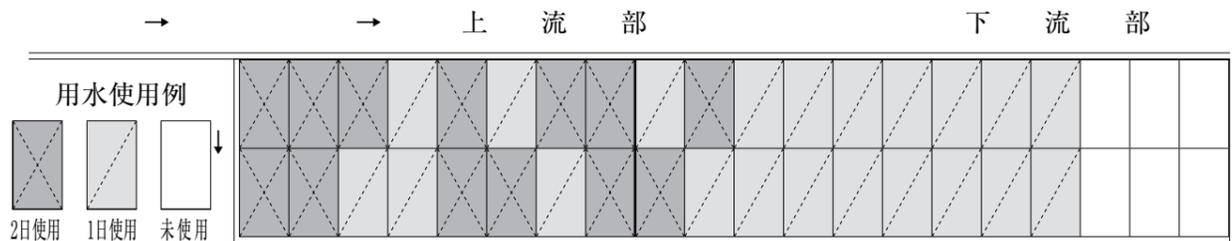
①代掻き期における中小河川水の有効活用が図られていない

- 平成27年度の干ばつによる電力料金の増は、予算を約2千4百万円オーバー
- その内、代掻き期は、予算を約1千4百万円オーバー
- 升形川等の中小河川に雪解け水が流れている間に代掻きを進めていないため、5月10日から通水する清水揚水機への依存度が大きい。

5/1	5/10	5/20	5/31
中小河川の雪解け水を利用していない	中小河川の水は既に少なく、代掻き時期にほとんど利用できていない		
	清水揚水機場の稼働時間が長く、電力料金負担が大きい		

②日照りが続いた渇水期に用水路末端ほ場へ確実に送水されていない

- 3ブロックのローテーションかんがいにより、3日に1回は通水休止
- 上下流部各々が、2日間の中で、いつ用水利用するかが明確に決まっていない
- 2日間、みんなが用水利用することで末端部分に水が到達しない



→ 2日間の中で各人がばらばらに用水を使用しているため、2日間とも末端農地に水が届かず利用できない。

2. 節水・節電の課題を解決するための方策

①代掻き期における中小河川水の有効活用方策

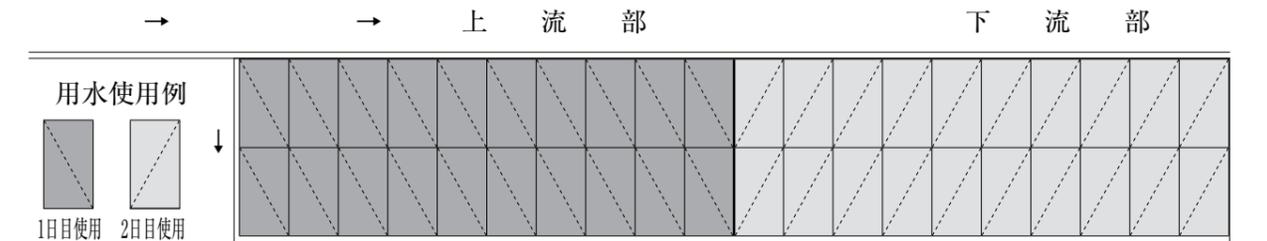
- 現況井堰の堰上げを4月中に行う。
- 5月上旬に、雪解け水を使って、代掻きが可能な箇所については、なるべく多く代掻き作業を実施する。

- 耕起をしていない地域に水を流すことは難しいため、各井堰の上流部分より優先的に現況井堰の水を使って代掻きする。
- 上流部を早く代掻きすることにより、排水路に落ちた水を反復利用する。そのために必要な反復施設を整備する。

5/1	5/10	5/20	5/31
中小河川の雪解け水を最大限利用して代掻きする	中小河川からの取水は少ないが、既に有効利用している		
	清水揚水機場の稼働時間が短くなり、電力料金負担が軽減される		

②日照りが続いた渇水期に用水路末端ほ場へ確実に送水するための方策

- 渇水期間に限っては、みんなが2日間の通水日の内、1日のみ用水利用することで2日目には末端部分に水を確実に到達させる。
- 上下流部各々が、2日間の中でどの日に利用するか明確に定める。
- どうしても水がかかりにくい末端地域では地下水の利用を検討する。



→ 上流部は1日目、下流部は2日目に取水するよう徹底することにより、最低でも3日に1回は末端ほ場まで用水されるようにする。

3. まとめ

- ①組合員の皆様に現状と対策案について、理解してもらえよう地域の会合や堰上げ作業時等に広く啓蒙する。
- ②各地区の維持管理委員会において、各井堰の上流地区の代掻き計画や渇水時の番水計画を策定する。
- ③策定した代掻き計画や番水計画を、地域の皆さんに説明し理解していただく。
- ④地域内で意見交換しながら、計画書を完成し対策を実行する。
- ⑤平成28年度からすぐに、すべて実施することは困難であるが、できることから順次進めていく。

*各地域において、計画書作成や図面の提供等について、補助が必要な場合は事務局へ後連絡くださるようお願いします。